

アンゴラ経済概要（2月）

本月報は当館が報道等公開情報¹より取りまとめたものです

石油・LNG

- ・ ソナンゴル社は、2012年に石油生産高を4.5%向上させ、次10年の間に石油開発に88億ドルを投資する予定。2017年までに200万バレル/日を目標とする（2/25 BB）。またナミブ砂漠での石油開発のポテンシャルを測るため、調査を実施予定（2/28 JA）。
- ・ ソナンゴル社は、第0鉱区に存在するマムフェイラ・スル（Mamufeira Sul）プロジェクトの建設に対し、約56億ドルを投資する予定（2/8 EX）。
- ・ ソナンゴル社は、中国開発銀行と約10億ユーロの融資契約を締結（2/14 SE）。
- ・ 2012年の石油セクター収入は、昨年より2.35%上昇し、約32億1900万ドル。2013年は新たな入札により、さらに増加する見込み（2/26 JE）。
- ・ アンゴラでは2011年に経済支出の6.3%をガソリン補助金に使用しており、貧困層よりも富裕層に裨益する本システムは是正すべきとIMFが言及（2/22 BB）。
- ・ LNGプラントの建設は、4～6週間の間に完工する予定（2/25 BB）。
- ・ ルアンダ精油所は、2012年、国内需要のうち20%を満たす一方、445万トンの石油製品が海外より輸入された（2/26 AP）。

鉱物資源

- ・ 海上輸送を担うユニカルガス（Unicargas）社は、コンゴ（民）のコウェジ（Kolwezi）鉱山とザンビアのカッパーベルト鉱山の鉱物を2017年よりアンゴラに輸送する予定（2/21 SE）。
- ・ 南アフリカにおいてMining INDAVA2013が開催。ケイロス地質鉱山大臣が出席（2/5 JA）。

財政・マクロ経済

- ・ 2013年度の予算が成立。499億ドルの歳出、458億の歳入、41億の債務を予定。また190億の融資、海外援助を計上。予算では、本年の経済指標につき、7.1%の経済成長、インフレ率9%、為替レート96.3クワンザ/ドル、油価96ドル/バレルを見込む。（2/14 BB）。
- ・ アンゴラ政府は本年中に国債を国際市場で初めて発行する予定（2/25 Ah）。

国際機関

- ・ 1月末にマクロ経済状況調査のため、IMFミッションが当国を訪問。発表されたコミュニケでは、政府は、歳入源や金融商品の多様化を進めるべきと言及。また2012年のアンゴラ経済を、「頑健（robusto）」で、財政状況を「より強力（mais forte）」、為替相場を「安定（estavel）」と評価（2/8 EX）。
- ・ 世界銀行は、アンゴラに対し鉱物資源セクターでのクレジットラインを提供する用意があ

¹ 参考: JA(ジョルナル・デ・アンゴラ), Ex(エスパンサン), BB(ブルームバーグ), JE(ジョルナル・デ・エコノミア), オ・パイス(OP), アンゴップ(AP), SA(セマナリオ・エコノミコ), Ah(アンゴラハブ), ラジオ・ナショナル・デ・アンゴラ(RNA)

る旨発表 (2/6 JA)。

- ・ アフリカ開発銀行は、アンゴラの農業セクターに対し、3000万ドルを投資する用意がある旨発表 (2/19 JE)。

金融・銀行

- ・ アンゴラでの証券取引所設立に向け、ルアンダでセミナーを実施。ロンドン証券取引所は、アンゴラに対し技術的支援等の準備がある旨発表。証券取引所委員会 (CMC) 代表は、設立には法的枠組みの整備が必要であり、有価証券の運営仲介会社を対象とした法案は現在政府の承認待ちと説明 (2/14 SE)。
- ・ ケニアにて、アフリカ地域の中央銀行総裁および財務大臣が集う金融規制理事会 (Conselho de regulamentacao financeira) が、G20の支援をうけ開催。経済産業セクターに向けたクレジットの迅速な発展、キャッシュフローに関する特別目標を設定 (2/11 JA)。
- ・ ソナンゴルとCGD (Caixa Geral de Depositos) が創設した開発振興銀行 (Banco de Promocao para o Desenvolvimento) は正式に活動終了を発表 (2/25 AP)。
- ・ アンゴラ中央銀行は、2月の金融政策委員会において、市中銀行における金利の参考値となるBNA基礎利率 (Taxa BNA) を、年10%のままで維持 (2/28 JA)。本金利は1月に10.25%から引き下げられたが、海外からの投資を促進すべく、さらに下げる余地がある旨BNA総裁は言及 (2/14 BB)。

二国間関係

- ・ ポルトガル：ポルトガル貿易投資機関 (AICEP) は、同国によるアンゴラへの輸出の重要性は増し、2012年1-11月までに37億ユーロまで到達と発表 (2/8 EX)。
- ・ ドイツ：本年6月に、第5回アンゴラ・ドイツ経済フォーラムが実施予定。アンゴラでの企業連携を求める投資家が多く参加する予定 (2/8 EX)。またドイツはマランジェ州の農業、地質鉱山、観光セクターに投資する意向 (2/19 JE)。
- ・ イタリア：2012年のアンゴラとの貿易量は約15億ドルで、2011年と比べ25%減少。アンゴラからは主に石油、鉱石を輸出し、イタリアからは機械類、食料品、石油商品等を輸出 (2/22 EX)。
- ・ トルコ：2013年6月実施予定のFILDA2013に100社以上が参加予定。両国の貿易量は、2000年の490万ドルから、2011年には2億2100万ドルまで増加 (2/22 EX)。

エネルギー・水・通信

- ・ ビエ州カマクパ市における小水力ダムのリハビリ工事は、1100万ドルの予算で、間もなく開始予定 (2/15 EX)。
- ・ ノルウェーは、アンゴラの再生可能エネルギーセクターに関する協力儀典書を締結 (2/4 Ah)。

インフラ・建設・物流

- ・ ロビト回廊に関する会合が開催され、アンゴラ・ザンビア・コンゴ (民) の専門家が出席。

各国は運輸簡易化のための機関(Agencia para a Facilitacao do Transporte de Transito)を創設する意向(2/15, JA)。

- ・ 米系企業ゼネラル・エレクトリック社は、CFM(モサメデス鉄道)に対し、鉱物資源輸送用の車両を販売する契約を締結。約52億クワンザ(2/8 EX)。またロビト鉄道に対しても、輸送企業に対し、車両100台の販売や技術協力の契約を締結(2/19 JE)。
- ・ ベンゲラ鉄道は、コンゴ(民)に到達間近。1337kmの内、1070kmの工事が既に終了(2/14 Ah)。
- ・ ルアンダ鉄道は19年振りにブンゴ駅までの路線が開通(2/6 JA)。
- ・ アンゴラ道路機関(INEA)は、2013-14年において、第三級道路の近代化を優先事項と位置づけ(2/19 JE)。
- ・ クワンドクバンゴ州クバンゴ河の橋梁建設(約250m)は、本年9月に完工予定(2/19 Ah)。
- ・ アンゴラ市場に関心を有する海外企業が参加する国際フェアFIELD Aは、2013年は7月16-21日に開催予定。今年はパビリオンを新たに2つ構え、それぞれトルコと中国が特別ブースを設置する見込み。またイタリアも展示面積を増加させる意向を表明(2/15 EX)。
- ・ アンゴラは輸出促進を目的とした新機関を設立予定。関連インフラの建設、リハビリ等を企画するプログラムを実施する見込み(2/19 JE)。

農業・漁業

- ・ BPC(貯蓄信用銀行)は、農村コミュニティのネットワーク拡大、農業生産向上イニシアティブ等に対し資金提供するプログラム(プロジェクト・ソバ)に500万ドルを投資(2/8 EX)。

その他の産業・当地企業

- ・ アンゴラでフォルクスワーゲンの公式生産企業であるアスペル bras・ヴェイクロス(Asperbras Veiculos)社は、販売量が20%増加し、2012年に約6000万ドルの利益を計上(2/8 EX)。
- ・ 2012年、アンゴラでは車両を販売台数が多かったメーカーは、ヒュンダイ(6249台)、スズキ(3999台)、トヨタ(3729台)、シボレー(3525台)、フォード(3248台)、キア(2293台)。販売店は、コサル(Cosal)(6249台)、TDA(3777台)、トヨタ・デ・アンゴラ(3729台)、ロバート・ハドソン(Robert Hudson)(3248台)、インポラフリカ(imporafrika)(2306台)、ルソランダ(lusolandad)(2192台)(2/15 EX)。
- ・ ANIPは、総額13億クワンザにのぼる民間投資案件6件を契約(2/22 EX)。
- ・ 戦略コンサル会社であるグリーンウィッチ(Greenwich)・コンサルティング社は、2012年の取引額が5000万ドルに達し、本年はさらに30%増加する見込みと発表。同社はアフリカにおいてアンゴラのみ事務所を設置(2/8 EX)。
- ・ アルコール飲料配送企業であるアトランフィナ(Atlanfina)社は、昨年1000万本以上の飲料品を配送(60%がワイン)。昨年より15%増加(2/22 EX)。
- ・ 2012年のアンゴラによる輸出額は、昨年より21.3%増加し、756億ドル。輸入量は5.1%増加し、217億ドル(2/22 EX)。